

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年5月15日
【四半期会計期間】	第14期第3四半期（自平成25年1月1日至平成25年3月31日）
【会社名】	株式会社エリアクエスト
【英訳名】	Area Quest Inc.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 清原 雅人
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 新宿アイランドタワー7階
【電話番号】	03(5908)3301(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 種崎 博寿
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿六丁目5番1号 新宿アイランドタワー7階
【電話番号】	03(5908)3301(代表)
【事務連絡者氏名】	経営企画室長 種崎 博寿
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第13期 第3四半期連結 累計期間	第14期 第3四半期連結 累計期間	第13期
会計期間	自平成23年 7月1日 至平成24年 3月31日	自平成24年 7月1日 至平成25年 3月31日	自平成23年 7月1日 至平成24年 6月30日
売上高(千円)	475,915	581,677	646,111
経常利益又は経常損失() (千円)	1,962	33,062	5,954
四半期(当期)純利益又は四半期 純損失()(千円)	11,204	23,483	19,169
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	10,072	51,355	3,899
純資産額(千円)	423,192	480,572	429,216
総資産額(千円)	558,236	819,713	593,732
1株当たり四半期(当期)純利益 金額又は1株当たり四半期純損失 金額()(円)	0.53	1.12	0.91
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	74.4	58.6	72.3

回次	第13期 第3四半期連結 会計期間	第14期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成24年 1月1日 至平成24年 3月31日	自平成25年 1月1日 至平成25年 3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	0.08	0.86

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第13期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。

4. 第13期連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 第14期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

6. 当社は、平成25年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益金額及び1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間における、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災からの復興需要を背景として景気押し上げが期待されるものの、企業、家計ともに景況感は弱く、また、欧州債務危機に伴う海外景気の下振れ懸念、新興国景気の減速感、原油価格の高騰や原発問題に起因する今後の電力供給への不安等により景気の先行きについては依然として、不透明な状況が続いております。しかしながら、平成24年12月の衆院選の結果を受け、新政権による金融緩和・景気対策への期待感から円安・株高の流れとなり、景気回復への明るい兆しも見え始めました。

不動産業界においては、当該震災以降の企業の出店意欲の低下や個人消費の抑制から一時回復の兆しが見られ、空室率は改善傾向にあるものの、依然として賃料水準が弱含みで推移するなど、事業環境は厳しい状況にあります。

このような厳しい環境下、当社グループにおきましては、平成24年7月に新宿アイランドタワーに本社機能を移転し、人材採用費等も拡大するなど、積極的に攻める姿勢に転じ、成功報酬型の売上構造からストック収入型の売上拡大を更に推し進め、安定した収益力の強化に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高581,677千円（前年同期比22.2%の増加）、営業利益32,589千円（前年同期は営業損失3,410千円）、経常利益33,062千円（前年同期は経常損失1,962千円）、四半期純利益は23,483千円（前年同期は四半期純損失11,204千円）となりました。

(2) 資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は264,901千円となり前連結会計年度末に比べ100,211千円増加いたしました。これは主に現金及び預金の増加によるものであります。固定資産は554,812千円となり、前連結会計年度末に比べ125,769千円増加いたしました。これは解約による保険積立金の減少を、本社機能の移転による新事務所の工事等の有形固定資産の増加と、サブリース物件数が増えたことによる敷金及び保証金と有形固定資産の増加が上回ったことによるものであります。

この結果、総資産は、819,713千円となり、前連結会計年度末に比べ225,980千円増加いたしました。

（負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は90,235千円となり、前連結会計年度末に比べ9,816千円増加いたしました。これは主に前受収益が増加したことによるものであります。固定負債は248,905千円となり、前連結会計年度末に比べて164,808千円増加いたしました。これはサブリース物件の増加により長期預り保証金が増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は、339,141千円となり、前連結会計年度末に比べ174,625千円増加いたしました。

（純資産）

当第3四半期連結会計期間末における純資産は480,572千円となり、前連結会計年度末に比べ51,355千円増加いたしました。これは主に四半期純利益の計上による利益剰余金の増加とその他有価証券評価差額金の増加によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	86,480,000
計	86,480,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年5月15日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	22,500,000	22,500,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数100株
計	22,500,000	22,500,000	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成25年5月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使(旧商法に基づき発行された新株引受権の権利行使を含む。)により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年2月1日 (注)	22,275,000	22,500,000	-	991,100	-	-

(注) 株式分割(1:100)によるものであります。

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 15,029		
完全議決権株式（その他）	普通株式 209,971	209,971	
単元未満株式			
発行済株式総数	225,000		
総株主の議決権		209,971	

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が15株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数15個が含まれております。

2. 当社は、平成25年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。なお、上記は分割前の株式数にて記載しております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合（%）
株式会社エリアクエスト	東京都新宿区西新宿 六丁目5番1号	15,029	-	15,029	6.68
計	-	15,029	-	15,029	6.68

(注) 当社は、平成25年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。なお、上記は分割前の株式数にて記載しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年7月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	83,747	185,242
売掛金	68,038	58,312
その他	15,053	22,095
貸倒引当金	2,149	749
流動資産合計	164,689	264,901
固定資産		
有形固定資産		
建物	114,147	157,467
減価償却累計額	62,673	69,656
建物(純額)	51,473	87,810
車両運搬具	14,804	14,804
減価償却累計額	9,632	11,040
車両運搬具(純額)	5,172	3,764
工具、器具及び備品	191,767	187,564
減価償却累計額	168,014	161,097
工具、器具及び備品(純額)	23,753	26,466
土地	32	32
リース資産	-	6,408
減価償却累計額	-	445
リース資産(純額)	-	5,963
建設仮勘定	17,299	53,895
有形固定資産合計	97,731	177,932
無形固定資産		
ソフトウェア	7,682	4,714
その他	2,342	4,442
無形固定資産合計	10,025	9,156
投資その他の資産		
投資有価証券	97,740	142,509
長期貸付金	21,210	21,500
長期前払費用	16,275	17,399
敷金及び保証金	110,926	170,423
保険積立金	61,179	1,936
会員権	26,724	26,724
その他	530	530
貸倒引当金	13,300	13,300
投資その他の資産合計	321,286	367,723
固定資産合計	429,043	554,812
資産合計	593,732	819,713

	前連結会計年度 (平成24年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,380	18,259
1年内返済予定の長期借入金	3,000	3,000
未払法人税等	2,332	9,468
未払金	42,085	33,525
その他	14,620	25,981
流動負債合計	80,419	90,235
固定負債		
長期借入金	19,750	17,500
長期預り保証金	56,153	196,991
その他	8,193	34,414
固定負債合計	84,096	248,905
負債合計	164,516	339,141
純資産の部		
株主資本		
資本金	991,100	991,100
資本剰余金	418,976	418,976
利益剰余金	713,599	690,115
自己株式	248,241	248,241
株主資本合計	448,235	471,719
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,018	8,852
その他の包括利益累計額合計	19,018	8,852
純資産合計	429,216	480,572
負債純資産合計	593,732	819,713

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
売上高	475,915	581,677
売上原価	269,522	331,334
売上総利益	206,392	250,343
販売費及び一般管理費		
役員報酬	42,354	41,841
給料	23,217	27,116
法定福利費	5,720	5,617
求人費	1,050	3,688
減価償却費	13,675	15,459
地代家賃	7,043	6,829
広告宣伝費	5,488	5,072
通信費	6,844	5,057
旅費及び交通費	4,663	5,536
支払手数料	28,952	30,760
顧問料	10,184	9,864
業務委託費	6,492	7,905
その他	54,116	53,005
販売費及び一般管理費合計	209,803	217,753
営業利益又は営業損失()	3,410	32,589
営業外収益		
受取利息	99	52
受取配当金	603	132
その他	1,453	1,003
営業外収益合計	2,157	1,187
営業外費用		
支払利息	708	715
営業外費用合計	708	715
経常利益又は経常損失()	1,962	33,062
特別利益		
投資有価証券売却益	11,000	1,954
その他	204	-
特別利益合計	11,205	1,954
特別損失		
投資有価証券売却損	3,378	-
会員権評価損	15,200	-
固定資産除却損	-	366
事務所移転費用	190	386
保険解約損	-	2,382
その他	486	117
特別損失合計	19,254	3,252
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	10,010	31,763
法人税、住民税及び事業税	1,193	8,280
法人税等合計	1,193	8,280
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失()	11,204	23,483
四半期純利益又は四半期純損失()	11,204	23,483

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	11,204	23,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,131	27,871
その他の包括利益合計	1,131	27,871
四半期包括利益	10,072	51,355
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,072	51,355

【会計方針の変更】

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年7月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響は軽微であります。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

該当事項はありません。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 （自平成23年7月1日 至平成24年3月31日）	当第3四半期連結累計期間 （自平成24年7月1日 至平成25年3月31日）
減価償却費	14,805千円	17,234千円

（株主資本等関係）

前第3四半期連結累計期間（自平成23年7月1日至平成24年3月31日）

配当に関する事項

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間（自平成24年7月1日至平成25年3月31日）

配当に関する事項

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自平成23年7月1日至平成24年3月31日）及び

当第3四半期連結累計期間（自平成24年7月1日至平成25年3月31日）

当社グループは、不動産ソリューション事業を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表等規則第17条の2の規定に基づき注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表等規則第17条の2の規定に基づき注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	0円53銭	1円12銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	11,204	23,483
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(千円)	11,204	23,483
普通株式の期中平均株式数(千株)	20,997	20,997
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	平成15年9月28日定時株主総会決議による第2回新株予約権 平成15年9月28日定時株主総会決議による第3回新株予約権 上記全ての新株予約権は、平成24年12月31日をもって権利行使期間満了により失効しております。

- (注) 1. 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失が計上されているため記載しておりません。
2. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 当社は、平成25年2月1日付で普通株式1株につき普通株式100株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 5月15日

株式会社エリアクエスト
取締役会 御中

三優監査法人

代表社員 公認会計士 小林 和 夫 印
業務執行社員

代表社員 公認会計士 船 井 宏 昌 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エリアクエストの平成24年7月1日から平成25年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成25年1月1日から平成25年3月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年7月1日から平成25年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エリアクエスト及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

会社の平成24年6月30日をもって終了した前連結会計年度の第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間に係る四半期連結財務諸表は、前任監査人によって四半期レビューが実施されている。前任監査人は、当該四半期連結財務諸表に対して平成24年5月15日付けで無限定の結論を表明している。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。